

会 議 結 果 報 告 書

令和5年11月1日

会議の名称	令和5年度 第2回志木市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年11月1日（水） 15：20～16：30
開催場所	志木市役所 大会議室3－1
出席委員	木下 和夫 上原 京子 伊藤 大輔 大石 裕弘 神戸 二郎 高橋 良和 (計6人)
欠席委員	佐野 隆之 志村 智 星野 賢 (計3人)
説明員職氏名	学校教育課 今指導主事 生涯学習課 遠藤主事補 (計2人)
議 題	(1) 地域クラブ活動について (2) 部活動の地域移行に関するアンケートについて (3) 今後のスケジュールについて (4) その他
結 果	別紙のとおり (傍聴者0人)
事務局職員	生涯学習課 土崎課長、吉成副課長、市川主事、遠藤主事補
審議内容の記録（審議経過、結論等）	

1 開 会 （事務局）

2 あいさつ （生涯学習課長）

3 議 事

（１） 地域クラブ活動について）

生涯学習課 土崎課長）

部活動の地域移行について、少子化が進む中、各学校部活動で人数が集まらず、チームが作れない等、従前の対応が難しくなっている。また、顧問を担っている先生の負担軽減という観点から、働き方改革を進めていく必要がある為、国からガイドラインが示された。地域の持続可能で多様な環境を一体的に整理する。そのガイドラインについて、まずは休日の部活動を令和5年度から7年度の3年間を改革推進期間として、地域移行・地域連携に取り組みつつ、可能な限り早急に実現を目指す。しかし、各市町村も模索している状況であるが、多くの自治体がなかなか進まない状況である。

第1回審議会にて、「期間を設けてモデル実施をしてみたらどうか。」等のご意見をいただき、学校教育課では部活動の観点から、生涯学習課は地域の観点から、地域移行とはどうあるべきかを検討していく。

（今指導主事・青木指導主事 紹介）

学校教育課 今指導主事）

現在、全国的に部活動について次のような課題が挙げられる。

- ・少子化により、人数が集まらずチームが組めない。

→志木市の子どもの数は、大きく減っていない。

- ・教職員の負担が大きく、働き方改革と両立できる持続可能な体制づくりが困難である。

- ・専門性のない教職員が顧問を担当することも多い。

このような課題を解決するために、国よりガイドラインが示され、部活動の地域移行が始まった。

【将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保すること】を第1の目的として、まずは休日における地域の環境整備を進めていく。

令和5年度から令和7年度の3年間を改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す。

大会等の見直しが図られており、令和5年度より、中学校体育連盟で学校

単位での出場のみ可能だった大会が、地域クラブも出場可能になった。

志木第二中学校にて、令和3年度より部活動の整理として部活動の数と教職員数の適正化により持続可能な部活動運営を図る為、検討している。

そんな中、直近2年間連続して女子の剣道部入部希望者が居なかった為、令和5年度より女子部員の募集を停止し、教職員の配置も停止した。

しかし、令和5年度は2名の入部希望者がおり、その保護者と協議を行いながら、救済策を実施している。

- ・練習は男子部員と共に行える体制とする。
- ・大会へは保護者の引率による参加を可能とする。
→そのためには「部活動」の形はとれない。
→団体戦には出場できない。
- ・調査書には活動した記録について記載。

部活動という扱いができない。教職員が増えない限り、部活動の増設が困難である。

次に、地域と連携した活動の在り方について、1つ目【部活動指導員の導入】について、市の職員として、部活動指導員を任命し、部活動の顧問としての職務を実施する。

メリット

- ・生徒が競技の専門的な指導を受けられる。
- ・教職員の負担が軽減する。

デメリット

- ・顧問である教員との連絡・調整は煩雑になる。
- ・立場が異なる複数の指導者が存在し、指導法の統一が困難である。
- ・兼業が可能且つ一定の時間勤務できる人材確保が困難である。
- ・同一の学校には最長5年間の在籍が限度である。

2つ目【学校部活動から地域クラブ活動へ】について、生徒が地域の団体に加入して活動を行う。大会等にはクラブとして参加できる。個人戦・団体戦ともに参加可能であり、今後、クラブチームからの大会参加の増加することが中体連でも予想されている。

これらを踏まえてモデル事業のご提案をさせていただきたい。

平日は学校にある中で、生徒の希望部活動に参加をし、休日は、地域の団体に所属し、練習に参加をする。大会は「地域クラブ」として出場する。

メリットとして、

- ・学校部活動の有無にかかわらず、子どもたちがやりたい競技に取り組み

る。

→例：剣道部は志木第二中学校のみあるが、他校からも参加が可能となる。

- ・専門性の高い指導者からの指導を受けられる。
- ・学区の枠を超えてチームを組むことができるようになる。
- ・地域での将来にわたる活動の促進に資する。
- ・競技人口の増加が見込まれる。

剣道連盟へ話をしたところ、快く引き受けていただけた。また、柔道連盟も来年度から、クラブから大会へ出場するとのこと。

いずれにしても、この事業は学校教育と社会教育が協力して進めていかなければならない。皆さまのお力添えをお願いしたい。

委 員) 部活動指導員について、5年間の在籍が限度とあるが、教職員と同じく、移動してしまうのか。

事務局) 移動してしまう。また、学校部活動と切り離して考えたい為、第2案の地域クラブ活動を行いたい。

委 員) 既存のクラブに生徒が入る形になるのか。新しいチームを作り、指導をするのか。

事務局) スポーツ団体が受け皿となり指導をするか、新たにチームを作り、そこに指導者を派遣するという2つの考えで進めている。

委 員) 平日は学校部活動に参加と書いているが、通っている学校のみか、他の学校にも通ってよいのか。

事務局) 通っている学校の部活動のみである。

委 員) もし剣道部が無い学校の子が剣道部に入りたいとなったときは、他の学校の練習に参加しても良いのか。

事務局) 参加しても良い。部活動は任意参加の為、平日の活動はせず、休日の地域クラブ活動のみの参加も可能とする。

委 員) 平日は練習ができないということか。

事務局) 学校部活動の範囲で練習は可能。地域クラブ活動が平日の夜に練習していた場合は、そちらに参加しても良い。

委 員) 所属している種目の縛りがあった。教職員の人員的な課題がある為、これから縛りを無くしていく方が良い。固くルールを縛らず、ケースバイケースでやっていった方が良い。

事務局) 現在、学校部活動自体が、時間がかなり縛られていて、1日1時間でできるかという形になってくる。その種目をやりたい子にやらせてあげられる環境づくりをしていく。今までの学校部活動とは少し違う。

委員) どのくらいのレベルの方が指導して良いのか。また、どんな人間性が適切なのか。様々なトラブルがあるだろうが、それをどうチェックするのか。

事務局) いままで教職員だったため、その為の研修等行っていた。今後どうするかは検討していく。

委員) 外部コーチを入れるのではなく、地域クラブ活動に移行したいということか。

事務局) できる限りしていきたい。

委員) 運動できる環境を確保したいとのことだが、1週間に何時間等、基準はこれから決めるのか。

事務局) 現状、部活動のガイドラインでは週に5日で1日あたり2時間程度であり、ガイドラインを超えた活動は行わない。

委員) 部活動と地域クラブ活動を併用していくということか。

事務局) 平日は部活動、休日は地域クラブ活動を行う。部活動も地域クラブ活動も任意の為、入らないといけない訳ではない。

委員) 今後、個人負担が出てくると思われるが、その負担ができるご家庭と、難しいご家庭があると思うが、どうなるのか。

事務局) 受益者負担は必ず出てくる。それがいくらくらいなのか、これから調査していく。またご家庭にも聞いていく。

委員) 全部をすぐに帰るのは難しいし、部活動を見たい先生も居る。様々な考えがあるが、今回出たような剣道連盟を足掛かりにして、モデル実施をするということか。

事務局) はい。また、競技によって特性が違うので、今後調べていきたい。

委員) 大会は地域クラブとして参加するとあるが、例えば「志木剣道クラブ」のようなものができあがって、様々な中学校の生徒が集まる。中学校体育連盟が主催するような剣道大会に学校名ではなく、クラブ名で出るということか。

事務局) はい。

委員) トーナメント表等も全て「〇〇クラブ」のようになるのか。

事務局) 事例としてある。

委員) 全国大会に行った場合も同様になるのか。

事務局) はい。今年度大きく変わった要綱の1つである。

事務局) 最近の中体連野球大会で前例があり、〇〇クラブで出場していた。

委員) 〇〇中学校対〇〇クラブのようになるのか。

事務局) はい。おそらくこのような呼び方が主流になる。

(2) 部活動の地域移行に関するアンケートについて

生涯学習課 土崎課長)

受け皿を探る中で、1つは現在ある既存の団体をそのまま受け皿となる場合と、新たな地域クラブチームを創り、連盟に登録している指導者をそこに派遣し活動する場合の2つがあると考えられ、資料2のアンケートについては、現在ある既存の団体に対して、どの程度中学生を受け入れることができるか、またどのような課題があるのかを調査する為、実施するものである。既存の団体について、資料3の体育協会加盟団体に対して、調査回答を依頼し、今後の部活動に対して、検討していこうと考えている。

生涯学習課 遠藤主事補)

議題2 部活動の地域移行に関するアンケートについて

- ・調査対象：志木市体育協会の連盟及びスポーツ少年団に所属している各団体
- ・調査期間：11月20日(月)から1月12日(金)
- ・回答方法：郵送または窓口にて提出、専用フォームより回答

1 各団体の現在の活動状況について、2 地域クラブ活動についてと大きく2つに分けており、1では現在の活動において、指導者数や環境の把握、課題等を伺い、2では、地域クラブ活動を行えるのか、または条件や環境の整備によって実現可能なのかを伺うものである。

1の問1「活動日と活動時間帯について教えてください。」について、学校の授業との兼ね合い等含め、受け入れが可能なのかを調査している。

1の問2「貴団体は、どこで活動をしていますか。」について、実際に中学生が入ったとき、活動可能な環境であるか調べるためである。

1の問3「貴団体の人数と年齢層を教えてください。」について、子ども向けの団体なのか、成人以上の親交を深める団体であるのか、多世代に渡り、様々な方が上達を目指す団体なのか、それぞれ団体によって雰囲気や方向性が違うと考えられる為、参考に伺っている。

1の問4「貴団体の指導者は、何名いますか。」について、受け皿となるうえで、指導者がどれだけいるのかを伺っている。また、指導者の有無によって、上達を目指す子と、趣味としてやりたい子で、受け入れの可否を図るうえで、参考となると考え伺っている。

また、後ほど触れますが、ここで分かった指導者に対して、「新たな「地域クラブチーム」を発足させ、各連盟の指導者の方々が指導を行うこと等を想定した場合」について調査しようと考えている。

1の問5「活動するにあたり、課題や困っていることなどがあれば教えてください。」について、受け皿の環境整備も必要だが、現場にしか分からない課題もある為、伺いたいと考えている。

次に、2地域クラブ活動について、問の前に地域クラブ活動について説明を入れている。

2の問1「貴団体は、【地域クラブ活動】として中学生を受け入れることは可能と考えますか。」について、スポーツ男女別の競技があるので、男子のみ可能なのか、女子のみ可能なのか、どちらも可能なのか、受け入れられないのか、条件次第なのかを伺い、これについて、問2で理由を参考として伺っている。

2の問3「受け入れ可能な日時は次のうちどれですか」について、実際に活動している時間と、受け入れても大丈夫な時間が違う可能性がある為、分けて聞いている。

2の問4「クラブ会費は、年間でいくら程度と考えますか。内訳を教えてください。」について、学校部活動でも、部費という形でお金を集めて活動しているが、今以上に負担が大きくなるのか、またはその逆に軽減されるのかを伺っている。

最後に自由記述を設け、分からないこと、要望等を皆さまに伺う。。

また、併せて国が示したガイドラインの概要を添付し、送付しようと考えている。

委員) 資料3の団体に配るのか。

事務局) はい。前はスポーツ団体及び文化団体について、どのように進めていくか審議いただいたが、まずスポーツ団体から整備していこうと考えている。

委員) これらは中学生向けの練習ができるような団体なのか。

事務局) リトルシニア連盟、少年野球連盟、スポーツ少年団は小学生の団体であるが、基本成人の方々が親睦を図るような団体である。

委員) そのような団体が中学生を受け入れて活動するということか。

事務局) はい。受け皿として可能であれば活動するよう整備する。希望している種目が学校部活動に無い、学校部活動に無いけれど、興味のある種目が体育協会にあるという可能性がある。

委員) スポーツ少年団はたくさんあるが、中学生が対象となるような団体が少ない。成人の方々で行うのも難しいのではないかな。

事務局) 確かに成人の団体が中学生を受け入れて活動するのは難しいかもしれないが、まず部活動の地域移行についてどう考えているか、客観的に見てどんなイメージを持っているのか、というところを伺いたい。また、1の問4「貴団体の指導者は、何名いますか。」について、指導者の人数を把握し、「②新たな【地域クラブチーム】を発足させ、各連盟の指導者の方々が指導を行うこと等を想定した場合の状況」についてのアンケートを指導者向けに行おうと考えている。

委員) 2の問4「クラブ会費は、年間でいくら程度と考えますか。内訳を教えてください。」について、合宿費やユニフォーム代についても伺った方が良いと思う。学校部活動ではある程度道具の用意等あると思うが、その負担についても伺った方が良い。

委員) 1の問4「貴団体の指導者は、何名いますか。」について、指導者の定義を明確に表示した方が良い。中学生をお預かりする立場として、教育的な部分から指導をすることが想定されることから、趣味でやっていたというような方がやっていいのかとなってしまう。

委員) アンケートの結果が出たとき、審議会に挙げるのか。

事務局) その予定である。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局) 現在、アンケート①案を学校教育課、生涯学習課の担当者会議にて作成し、今回の審議会にて審議させていただいた。

審議いただいた内容で、体育協会の各団体へ送付し、年明けに集計を予定している。集計結果を3月の審議会にて発表・審議を予定している。

アンケート①の結果を元に、アンケート②の作成、検討、集計、審議と同じような流れで実施しようと考えている。

アンケート①の調査内容は、先ほどの説明と重複するが、各連盟の団体を生徒の活動の場とした場合を調査しているが、アンケート②では、新たな「地域クラブチーム」を発足させ、各連盟の指導者の方々が指導を行うこと等を想定した場合について①で分かった指導者に向けて調査を考えている。

令和6年度より、剣道連盟・柔道連盟と協力し、モデル実施を行う。

モデルチームと情報交換を行いながら、次年度に向けて検証を行い、チームを増やす等、休日の部活動について、地域クラブ活動に移行していこうと考えている。

審議会の予定についてだが、前後する可能性がある。

委 員) アンケートの結果が出てくれば、もっと詳細に部活動地域移行について進めて行ける。それに対して審議会にて審議を行えばより良い状況になると思う。理解が難しいと思うので、相談窓口のようなものを設置した方が良い。

事務局) 個人競技の場合は比較的地域移行しやすいのではないと思うが、団体競技について、委員の皆さまはどうお考えか。

委 員) クラブチームに入っている子たちは上位を目指すため、部活動に入らず、既に自主的に加入している。

事務局) 体を動かすことを目的とした子は平日の部活動のみ参加する。

委 員) スポーツ少年団は小学生を見ているので、受け皿となりたいが、中学生の指導は難しいと思う。

事務局) 今後、中学生のチームが増えてきたら、子どもたちの活動も充実するのではないかと考える。

委 員) 団体競技は、指導者の影響を受けやすい。団体ごとに全国を目指すのか、目指していないのかという目的意識の違いがある。志木市がスポーツ振興を目指すのか、文化・スポーツ共に活動を振興するのか、位置決めが必要である。

事務局) 部活動では友達がいるから参加するというケースもある。この制度でスポーツ実施率が下がってしまうのではないかと心配している。

委 員) 生徒より保護者とのコミュニケーションが難しい。アンケートをまずは進めてみるが良いのではないか。

委 員) スポーツ振興を図るのか。それとも、授業の一環とするのか。

事務局) 授業とは切り離して考えていただきたい。

(4) その他

事務局) その他について、次回会議について、先ほどスケジュールにて触れさせていただいたが、アンケート集計・検証後、3月頃にご報告をしたいと考えている。また、日程調整等の通知を送付する。

委 員) 事務局でも何か問題を見つけたら、手紙でもいいので周知して欲しい。

4 閉 会